

アカゲラ通信



2024-25 冬春、野鳥のいつもと違う動きと夏鳥渡来日一覧

2024-25 の冬は一部の野鳥で例年とは違う動きが見られました。◎は例年の、■は今年の動きです。

●イカル◎3~5月に渡来、11月に南に渡る■数羽が越冬し、冬の間も囀りが聞かれました。ただし、イカルの越冬は初めてではなく過去にもありましたが、植物の種子が豊作であったことが関係しているものと考えられます。

●マヒワ◎10月下旬から5月上旬まで数羽が越冬■12月中旬までときどき数羽を見るだけでしたが、その頃100羽前後が入り、4月下旬まで滞在、5月に入って見られなくなりました。ただし、昨年は4月中旬まで冬の間もたまに数羽を見るだけでしたが、その頃に100羽近くが現れ、5月上旬まで見られていました。



●アトリ (右写真上) ◎年により数羽だったりほぼ見られなかつたり見られる年は5月上旬まで■1月に数羽が現れ、4月中旬までいましたが、例年より早く4月下旬に見られなくなりました。



●シロハラ (右写真中) ◎4月と10月に短期間見られる旅鳥■12月下旬に数羽が現れて越冬し、4月中旬まで見られていました。一方で本来の春の旅鳥としての動きは見られませんでした。



●ツグミ◎11月頃渡来しばらくは多く2月に数羽に減り4月にまた見られる■12月上旬までは渡りの群れがときどき見られるだけでしたが、12月中旬に50羽前後がやって来て居つき、4月上旬まで多少の数の増減はあっても滞在し続けていました。4月下旬にはぱらぱらと見られるだけになりました。

●ヒレンジャク◎10月中旬20羽前後が渡来し1月中旬まで滞在一度見られなくなるが4月下旬に短期間見られる■4月まで観察情報数例、4月下旬に20羽前後が来て10日ほど見られました。※キレンジャクは今冬札幌市内での観察情報はほぼゼロでした。

●ヒガラ (右写真下) ◎11月に囀りが聞かれなくなり12月に再開



■渡り鳥ではないですが、11月にも盛んに囀り続け、初鳴きがいつかが分からなくなりました。

2025年夏鳥渡来日一覧

※は旭山では通過のみの種、カッコ内は昨年比

- ①ヤマシギ 3/23 (7日早) ②ホオジロ 3/24 (7日早) ③キジバト 4/1 (1日遅)
- ④ベニマシコ※4/7 (4日早) ⑤キセキレイ 4/9 (4日早) ⑥クロツグミ 4/11 (同じ)
- ⑦アカハラ※4/11 (昨年記録なし) ⑧モズ 4/11 (11日遅) ⑨ノビタキ※4/17 (同じ)
- ⑩ウグイス 4/19 (12日遅) ⑪ヤブサメ 4/19 (4日遅) ⑫メジロ 4/23 (10日遅)
- ⑬センダイムシクイ 4/24日 (2日早) ⑭ビンズイ※4/25 (14日遅) ⑮コマドリ※4/25 (6日早)
- ⑯アオジ 4/26 (16日遅) ⑰ルリビタキ※4/26 (16日遅) ⑱オオルリ 4/28 (2日遅)
- ⑲キビタキ 4/30 (3日遅) ⑳エゾムシクイ※5/2 (同じ) ㉑ツツドリ 5/2 (2日早)
- ㉒ニュウナイスズメ※5/2 (昨年記録なし) ㉓コサメビタキ 5/10 (1日遅)

レストハウス「ぼるく」営業中！

「旭山記念公園フォトコンテスト」、多数ご応募いただきありがとうございます。

一次審査を通過した作品は、5月後半からレストハウス内にて掲示し、人気投票を行って順位を決めます。みなさまぜひふるって人気投票にご参加ください！

上位作品はポストカードとして販売されます。お楽しみに！



旭山野鳥メモ 69 イカル

イカル Japanese Grosbeak *Eophona personata* スズメ目アトリ科
夏鳥だが一部が越冬する年もある(表面特集参照)。

広葉樹林に広く生息。亜高山帯以上にはいない。開けた場所の孤立林にもほとんど来ず、山からあまり離れずに生活している。

雌雄同色、大きな黄色い嘴は迫力がある。その嘴で主に樹木の種子を割って食べる。桜の実にもよく来る。写真は越冬中にハウチワカエデの種子を食べていたところ。虫も食べる。

頭や翼、尾羽は黒く見えるがよく見ると濃紺で美しい。

いかつい顔つきの割に囁り声がきれい。高い木のてっぺん付近にとまって「ホヒリホヒー」と朗らかに囁く。「月日星」または「お菊二十四」と聞きなしされ、覚えると分かりやすい。飛びながら囁くこともある。繁殖期が終わった秋にも囁く、さらには越冬中も囁りが聞かれ続けていた。

地鳴きは「キヨッ キヨキヨッ」、飛びながらも鳴く。アカゲラに似るが、イカルは1音ずつ区切らず鳴くことがあるのと、アカゲラはあまり高い空を飛ばないので識別できる。声に気付いて見上げると高速で飛び抜けることばかりで、存在を知る機会は比較的多いが(特に今年は)、低い位置にはなかなか降りて来ない。

普段は2、3羽で暮らすが、秋になると10羽以上の群れで見られることがある。

斑鳩(いかるが)の里というように古来から日本で親しまれてきた野鳥。もっと近くで見てみたいものだ。



2025年5月の野鳥トピックス

- シマエナガ：子育て中と思われます(追いかけないで！)
- キビタキ：吊り橋周辺での観察機会が多く囁りもしています
- コサメビタキ：例年5月中旬は見られる機会が比較的多いです
- オオルリ：今年は吊り橋周辺で観察機会が多く囁りもしています
- クロツグミ：吊り橋、遊具広場周辺で囁りしています
- イカル：飛ぶ姿はよく見られますがなかなか近くに来ません
- アオジ：ポートランドの森と遊具広場でときどき見られています
- ホオジロ：展望台周辺で囁りしている日もあります
- ウグイス：園内数か所で「ホーホケキョ」と囁りし木にとまって鳴いていることもあります(上写真)
- ヤブサメ：園内一円の笹藪で「シリシリシリ」と囁りときどき笹藪の近くの地面に出てきます



旭山の桜とミニ生き物図鑑 2025年5月



展望台一本桜 4/28



新桜並木と円山 5/1



イタヤカエデの黄色い花と 5/2



白い花が咲くカスミザクラ 5/10



春真っ先に出る蝶エルタテハ 4/11



旭山では珍しいヒオドシチョウ 4/7



春のむしビロウドツリアブ 4/27



オオウバユリまだあった！ 4/26

「アカゲラ通信」 第139号 2025(令和7)年5月10日発行

(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311 (金・土・日・祝日 10時~16時) FAX 011-200-0351



公式サイト